

大学教員の ICT 活用のためのヒント集の改善

Improvement of the Website Which Offers Tips and Hints for faculty to effectively use ICT

森本 容介^{*1}, 中川 一史^{*1}, 苑 復傑^{*1}
 Yosuke MORIMOTO^{*1}, Hitoshi NAKAGAWA^{*1}, Fujie YUAN^{*1}
^{*1}放送大学
^{*1}The Open University of Japan
 Email: morimoto@ouj.ac.jp

あらまし：大学教員を対象とした ICT 活用や授業改善のヒント集を掲載した Web サイトを制作・運用している。本サイトは、ビデオ集と Q&A 集から構成されている。必要なコンテンツのみを手軽に閲覧できるように、コンテンツ間の独立性を高め、それぞれを短時間で閲覧できるようにしている。系統立てて閲覧したい利用者のために、コンテンツ間のつながりをガイドする「シナリオ」ページを設けた。現在、約 70 本のビデオと約 130 項目の Q&A を掲載している。本稿では、本サイトの詳細と利用状況を報告する。
 キーワード：FD, ICT 活用, Web サイト, コンテンツ開発

1. はじめに

教育方法などに関して困っていることや知りたいことがある場合、大学教員は Web のサーチエンジンで検索し、回答を探すことも多いと考えられる。このとき、適切なコンテンツが見つければ有用である。

そこで、これまでに、大学教員を対象とした ICT 活用や授業改善のヒント集を掲載した Web サイト（以下、「旧サイト」）を制作し、運用を行った⁽¹⁾。旧サイトには、3 分程度の短いビデオと、数分で読める程度の分量で説明したテキストベースの Q&A を掲載していた。アクセス状況から、その評価を行ったところ、以下のことが分かった。

- サーチエンジン経由でコンテンツへ直接アクセスし、必要なコンテンツのみを閲覧する利用方法が多い。
- Q&A は、閲覧者の情報要求をおおむね満たせていると考えられる。ビデオは、サーチエンジン経由でのアクセス自体が少なく、工夫を要する。
- FD、著作権、授業設計・評価などに関するコンテンツが、相対的に利用が多い。

本研究では、2.3 節で述べるサイト内ナビゲーションを中心に、旧サイトを改善した。次章で、新たに制作したサイトの詳細を述べる。

2. ICT 活用ヒント集の制作

2.1 サイトの概要

旧サイトを改善し、新たに「大学教員のための ICT 活用ヒント集」（以下、「本サイト」）を制作した。本サイトは、大学教員を対象とした、ICT 活用や授業改善のヒントを掲載している。サイト名にも含まれる「ICT 活用」に関するコンテンツを中心に、実際の授業ですぐに実践できるような具体的な事例、授業や校務の改善のためのアイデアやテクニック、教育者として身につけておくべきスキルや知識などを紹介している。いずれも、該当分野の専門知識を

持った教員が出演、または執筆している。旧サイトのコンテンツを引き継いだほか、有用と考えられるテーマについて、新たなコンテンツも追加した。

2.2 掲載コンテンツ

本サイトは、ビデオ集と Q&A 集から構成される。ビデオは 1 本が 2~7 分程度であり、本稿の執筆時点において、約 70 本を掲載している。Q&A は 1 問 1 答型の Web ページであり、多くは 500~1,500 字程度の分量である。本稿執筆時点において、約 130 項目を掲載している。短い時間で手軽に閲覧できるように、ビデオ、Q&A のいずれも、1 つのコンテンツで伝える内容は 1 つとなるようにした。また、コンテンツ間の独立性を高めることにより、必要なコンテンツのみを閲覧できることや、コンテンツを組み合わせることで利用できるようにすることも意図している。掲載しているビデオと Q&A の例を、図 1 に示す。



図 1 ビデオ（左上）と Q&A（右下）の例

2.3 サイト内ナビゲーション

旧サイトでは、書籍の章に相当する「中項目」を設け、順番をつけてコンテンツを提供していた。旧サイトのアクセス状況を分析した結果、先頭から順

番に閲覧する利用者は非常に少なく、サーチエンジン経由で訪問し、そのコンテンツのみを閲覧する利用方法が多いことが分かった。本サイトでは、コンテンツのカテゴリ分けや順序づけを廃止した。その代わりに、関連コンテンツへのハイパーリンクを設置したほか、コンテンツへのタグ付けを行い、タグを経由して関連コンテンツへの遷移が行えるようにした。さらに、コンテンツを系統立てて閲覧したい利用者のために、「シナリオ」と呼ぶナビゲーション用のページを設けた。シナリオは、複数のコンテンツ間をつなぐページである。あるテーマを体系的に理解するために必要な内容を説明し、閲覧すべきコンテンツを提示している。「eラーニングの実施状況を知りたい」というシナリオでは、eラーニングの定義や分類などを示した後、海外における実施状況、国内における実施状況、eラーニングの歴史や国による違いなどのコンテンツへ誘導している。本稿執筆時点では4つシナリオを掲載しており、今後さらに追加する予定である。シナリオページの例を、図2に示す。

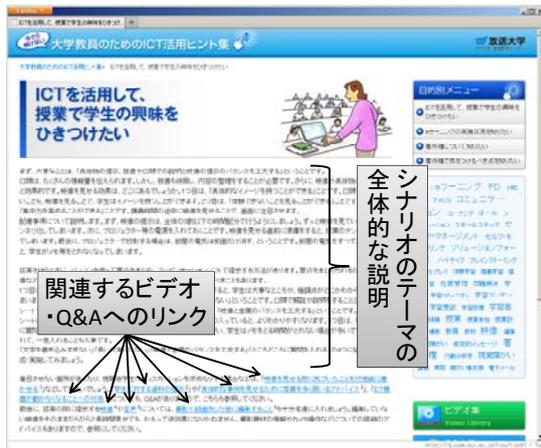


図2 シナリオページの例

3. 利用状況の分析

3.1 対象セッション

旧サイトにおいて、2010年4月1日から2010年11月30日まで、8か月のアクセスを分析し、利用状況を調査した⁽¹⁾。本サイトにおいても同様の調査を行い、比較を行った。本サイトは、2012年3月末に公開したため、2012年4月1日から2012年5月31日までの2か月のアクセスを対象とした。旧サイト・本サイトともに、同条件でロボットや関係者のアクセスをできるだけ除き、Webブラウザによる通常のアクセスの可能性が高いセッションを抽出した。その結果、旧サイトは3,330セッション、本サイトは1,704セッションを抽出できた。月ごとのセッション数は本サイトが2倍以上となっており、利用が進んでいることが分かった。

3.2 サイトへの流入経路

サイトへの流入経路を表1に示す。旧サイト・本サイトともに、サーチエンジンからの流入が多い。

利用を促進するためには、サーチエンジンへの対応が重要であることを確認した。

3.3 セッション長

セッション長(1セッションの閲覧ページ数)の平均を表2に示す。括弧内の数字は、トップページやシナリオページなどを除いた、ビデオ・Q&Aのみのページ数である。旧サイト・本サイトともに、サーチエンジンからの流入の方がセッション長は短い。これは、情報要求がある程度明確になっており、必要なコンテンツのみを閲覧する傾向があるためと考えられる。本サイトでサイト内ナビゲーションを充実させた理由の1つは、関連するコンテンツの閲覧を促し、セッション長を伸ばすことであった。しかし、旧サイトよりも本サイトの方がセッション長は短くなっている。シナリオページが少ないことは、原因の1つであると考えられる。一方で、サーチエンジンで検索し、必要なコンテンツのみを閲覧する利用方法、すなわちセッション長の短い閲覧は、本サイトの主要な想定利用方法である。さらなる考察が必要である。

3.4 サーチエンジンからのアクセス

サーチエンジンでの検索結果画面から、コンテンツページへ直接アクセスされる回数を調べた。1コンテンツあたりの平均アクセス回数は、旧サイトでは、Q&Aの方がビデオよりも9.4倍多かった。これは、Q&Aの方が、検索対象となる文字列が多く含まれるためと考えられる。本サイトでは5.9倍に縮小し、相対的にビデオへのアクセスが増加した。サーチエンジン向けの概要や、タグを記述したことが理由の1つと考えられるが、根本的にビデオの利用を増やすためには、さらなる工夫が必要である。

表1 サイトへの流入経路

	旧サイト	本サイト
サーチエンジンから	42.2%	55.6%
HTTP リファラなし	31.1%	29.0%
その他	26.7%	15.4%
計	100.0%	100.0%

表2 セッション長の平均

	旧サイト	本サイト
サーチエンジンから	1.94 (1.66)	1.63 (1.28)
それ以外	3.83 (2.71)	3.11 (1.62)

4. まとめ

本稿では、「大学教員のためのICT活用ヒント集」の詳細と、利用状況を述べた。本サイトのURLは、<http://fd.code.ouj.ac.jp/tips/>である。

参考文献

- (1) 森本容介, 中川一史, 苑復傑: “「大学教員のための授業改善ヒント集」の制作と運用”, メディア教育研究, 第8巻, 第1号, pp.R1-R6 (2011-12)